

【平成20年度】

◆一條彰子

『小学校学習指導要領解説図画工作編』（作成協力者）（文部科学省、2008年8月）

発表「国立美術館が行う鑑賞教育研修」／第32回InSEA（国際美術教育学会）世界大会2008 in 大阪、招待セミナー「我が国の鑑賞教育・美術館教育の研究プロジェクト」（大阪インターナショナル・ハウス、2008年8月6日）

「第5・6学年の授業展開」／『小学校学習指導要領の解説と展開 図画工作編』（教育出版、2008年8月17日）

講演「美術館を活用した鑑賞教育」、演習「アートカードを使って」／『授業実践の発表と題材（教材）の研究』（東京都中学校美術教育研究会、中野ZEROホール、2008年8月21日）

「美術館と学校をつなぐ鑑賞教育」／『文部科学時報』1593号（文部科学省、2008年10月）

「国立美術館の研修と教材」／『教育美術』797号（財団法人教育美術振興会、2008年11月）

「連携で活用できる美術館の資源」／『平成20年改訂 小学校教育課程講座 図画工作』（ぎょうせい、2008年11月15日）

「鑑賞教育と向かい合う3日間」、ほか企画編集／『平成20年度美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修』記録集（2008年12月）

企画編集「特集：美術館と学校Ⅱ」／『現代の眼』574号

発表「国立美術館の研修と教材」／『美術鑑賞教育の現状・課題・展望』（科研「対話による意味生成的な美術鑑賞教育の開発」報告会、文部科学省第1講堂、2009年2月21日）

「美術館から見た学校—美術館連携」／『美術教育の動向』（武蔵野美術大学出版社、2009年3月30日）

◆大谷省吾

講演「岡本太郎とシュルレアリスム」（川崎市岡本太郎美術館、2008年5月11日）

「碌山美術館との深い関わり」／『碌山 碌山美術館友の会だより』19号（2008年6月）

「反抗と前衛」／『別冊太陽 近代日本の画家たち』（平凡社、2008年8月）

「Artist Interview 塩田千春」／『美術手帖』912号（美術出版社、2008年9月）

「太田三郎展：鑑賞上のご注意」／『太田三郎—日々』展カタログ（山形美術館、2008年11月）

講演「新発見の福沢一郎作品をめぐって」（福沢一郎記念館、2008年11月12日）

「岡本太郎の“対極主義”の成立をめぐって」／『東京国立近代美術館研究紀要』13号

「戦前と戦後の前衛絵画をつなぐもの—福沢一郎、鶴岡政男、北脇昇を例に」／『藝叢』25号（筑波大学芸術学研究室、2009年3月）

◆尾崎正明

「加山又造について」／『加山又造展』カタログ（国立新美術館、2009年）

◆蔵屋美香

「ロマンと情緒」、作家解説、作品解説、コラム／『別冊太陽 近代日本の画家たち』(平凡社、2008年8月)

資料解説：「山本芳翠」「藤田嗣治(レオナルド・フジタ)」「沖縄の画家が描く沖縄」／『沖縄・プリズム 1872-2008』展カタログ

発表「How to Globalize/Glocalize the Community? A Life with Art Museum」／テグ市立美術館設立準備シンポジウム(韓国、テグ市デザインセンター、2008年9月26日)

「より前へ」／『シェル美術賞展2008』カタログ(昭和シェル石油株式会社、2008年11月)

講演「よくわかる近代日本の美術」／平成20年度国立美術館巡回展「名作と出会う 明治・大正・昭和の美術」展(福井県立美術館、2008年11月23日)

「近代美術の東京 中村彝『エロシエンコ氏の像』」／『読売新聞』(都内版、2008年12月12日)

章解説、作品解説、翻訳文献解説、作家略歴／『ビデオを待ちながら一映像、60年代から今日へ』展カタログ

「寝る人・立つ人・もたれる人—萬鉄五郎の人体表現」／『東京国立近代美術館研究紀要』第13号

「田尾創樹」／『VOCA展 2009 現代美術の展望—新しい平面の作家たち』展カタログ(上野の森美術館、2009年3月)

◆鈴木勝雄

「近代美術の東京 ロダン『トルソー』」／『読売新聞』(都内版、2008年5月9日)

「沖縄・プリズム—隔たりを生きる倫理」、「乱反射する沖縄」、章解説、作品・資料解説：「島海青児」「沖縄観光の黎明」「民藝と沖縄」「沖縄と記録映画」「沖縄戦と戦後沖縄の変容はいかに伝えられたか」「廃墟からの出発」「安次嶺金正」「安次富長昭」「未知の島から既知の島へ」「写真集に託されたメッセージ」「東松照明と平良孝七」「沖縄海洋博覧会と沖縄の『崩壊』」「戯曲『人類館』」／『沖縄・プリズム 1872-2008』展カタログ

「日本美を求めて」、作家解説、作品解説、コラム／『別冊太陽 近代日本の画家たち』(平凡社、2008年8月)

◆都築千重子

「近代美術の東京 川合玉堂『行く春』」／『読売新聞』(都内版、2008年4月11日)

「近代美術の東京 今村紫紅『時宗』」／『読売新聞』(都内版、2008年6月13日)

「[コレクションによる小企画]『コラージュ切断と再構築による創造』それでも創る—コラージュの破壊と創造、パンリアル美術協会の作家たちを中心に」／『現代の眼』573号

テキスト／『コラージュ切断と再構築による創造』展ブローシャ

「パンリアル美術協会草創期の流れと下村良之介」／京都国立近代美術館ニュース『視る』437(2009年3月20日)

◆鶴見香織

「生誕100年展へようこそ！」インタビュー(尾崎正明と解説)／『芸術新潮』701号(新潮社、2008年5月)

「南画と個性派」、作家解説、作品解説、コラム／『別冊太陽 近代日本の画家たち』(平凡社、2008年8月)

作品解説／『趣味の水墨画』233号(ユーキャン、2008年8月)
作品解説／『日本の美Ⅲ 日本の四季 春夏編』(美術年鑑社、2008年9月)
資料解説：「富田溪仙」「菊池契月」／『沖縄・プリズム 1872-2008』展カタログ
「作品研究 川合玉堂《行く春》について」／『現代の眼』572号
「近代水墨画の鑑賞」、作家解説、作品解説(京都国立近代美術館・小倉実子と構成・執筆)／『趣味の水墨画』238号(ユーキャン、2009年1月)
作品解説／『趣味の水墨画』240号(ユーキャン、2009年3月)

◆中林和雄

「岸田劉生《道路と土手と塀》」／『紫明』第23号(紫明の会、2008年9月20日)
発表「ドローイングの時間性」／シンポジウム「ドローイング再考 テクネーとアートのはざままで」(東京国立近代美術館講堂、2008年9月27日)
翻訳『ロスコ 芸術家のリアリティ 美術論集』(みすず書房、2009年2月)
「近代美術の眼 岡村桂三郎『白象図』」／『読売新聞』(都内版、2009年3月13日)

◆中村麗子

「装飾表現の試み」、作家解説、作品解説、コラム／『別冊太陽 近代日本の画家たち』(平凡社、2008年8月)
作家解説／『現代美術への視点6 エモーショナル・ドローイング』展カタログ
「近代美術の東京 川端龍子『草炎』」／『読売新聞』(都内版、2008年9月12日)
講演「京都の日本画―竹内栖鳳を中心に―」(町田市立博物館、2008年10月26日)
イベント報告「『現代美術への視点6 エモーショナル・ドローイング』展関連パフォーマンス『エモーショナル・バゲージ』(シュシ・スライマン)について」／『現代の眼』574号
テキスト／『木に潜むもの』展ブローシャ

◆保坂健二郎

「戦後具象」「ニュー・ペインティング」「ニュー・スカルプチャー」／『美術手帖』(美術出版社、2008年4月)
「美術館ならではの建築展をめざして」／『建築雑誌』(日本建築学会、2008年4月)
「Exhibition Walkabout (1)~(11)」／『東京人』(都市出版、2008年5月~2009年3月)
「山口で見るメディア・アート―池田亮司が見せる世界」／『すばる』(集英社、2008年6月)
「建築家がつくり続ける理由 ペーター・メルクリと青木淳」／『建築がうまれるとき ペーター・メルクリと青木淳』展カタログ
集中講座「絵画の歴史 近代から現代まで」／(アーツイニシアティヴ トウキョウ、2008年6月20-21日)
「『墜ちた天空』と葎の意志―畠山直哉が写した地下採石場」／『すばる』(集英社、2008年7月)
「凛々しい絵、日高理恵子の樹」／『すばる』(集英社、2008年8月)
「エモーショナル・ドローイングについて」、作家解説／『現代美術への視点

6 エモーショナル・ドローイング展カタログ

「縁起は未来に一石山修武の建築ライヴ」／『すばる』(集英社、2008年9月)
「丸山直文と雰囲気的美学」／『丸山直文全作品集 1988-2008』(求龍堂、2008年10月)

発表「ドローイングは『近代』を疑う」／「国際シンポジウム Count 10 Before You Say Asia-Asian Art after Postmodernism-」(国際交流基金、2008年11月23日)
講演「フランシス・ベーコン《横たわる人物》について」(富山県立近代美術館、2008年11月30日)

発表「ドローイングは極私的メディアか 奈良美智を手がかりにして」／『第13回アート・スタディーズ 1995年～2004年大震災以後の建築と美術』(INAX銀座、2008年12月8日)

対談「ドローイングを語る」(相手：金井直)(京都国立近代美術館、2008年12月13日)

「見えない炭坑を記録するために—『山本作兵衛の世界』を見て」／『すばる』(集英社、2009年1月)

「近代美術の眼 深沢索一『索一自選小品集 第一輯』より 4.冬目」／『読売新聞』(都内版、2009年1月30日)

『キュレーターになる！—アートを世に出す表現者』(編著、フィルムアート社、2009年2月)

「冬に熊谷守一を見るということ」／『すばる』(集英社、2009年2月)

発表「作品を言葉にすること……」／シンポジウム「アメニティ・ネットワーク・フォーラム3」(大津プリンスホテル、2009年2月21日)

講演「建築×アート＝青木淳」(青森県美術館、2009年2月28日)

「ペインタリー」「風景」「関係」／『美術手帖』(美術出版社、2009年3月)

「アール・ブリュットへの恋文を書くことの困難について」／『アール・ブリュット・コレクションとボーダレス・アートミュージアムNO-MAとの連携事業報告書』(特定非営利活動法人はれたりくもったり、2009年3月)

◆増田玲

「光のフィールドノート」／『高梨豊 光のフィールドノート』展カタログ

「コミュニティとともに歩む写真部門 サンフランシスコ近代美術館での研修を終えて」／『現代の眼』570号

「近代美術の東京 畠山直哉『川の連作』」／『読売新聞』(都内版、2008年7月11日)

「美術館と写真の現在」／『写真空間2』(青弓社、2008年9月)

「〈In Tokyo〉について」／『伊奈英次 In Tokyo + EMPEROR OF JAPAN』展カタログ(ギャラリー・アートアンリミテッド、2008年10月)

◆松本透

「アンビヴァレンスの絵画—中村一美の新作」／『中村一美 2008 存在の鳥 II』展小冊子(南天子画廊、2008年6月)

「拡張せよ！メディアの内部と外部」／『第5回ソウル国際メディア・アート・ビエンナーレ』カタログ(ソウル市、2008年9月、韓国語及び英語)

発表「現代美術とオリジナル」／第32回文化財の保存及び修復に関する国際研究週間(東京国立博物館平成館大講堂、2008年12月6日)

発表「展覧会カタログと現代美術」／アート・ドキュメンテーション学会主催『展覧会カタログ総覧』刊行記念シンポジウム「いま、あらためて展覧会カ

タログを見直す」(和光大学附属梅根記念図書館、2009年3月20日)

◆水谷長志

発表「文化財情報の発信と連携について—検索サイト『ALC』と『想—IMAGINE』を事例に」/東京文化財研究所企画情報部研究会(東京文化財研究所、2008年4月22日)

「書評『美術家書誌の書誌：雪舟から東芋、ヴァン・エイクからイ・ブルまで』/『アート・ドキュメンテーション通信』77号(2008年4月)

発表「シンポジウム：物語るアート・ドキュメンテーションのためのブリーフ・イントロダクション」/アート・ドキュメンテーション学会年次大会シンポジウム(京都国際マンガミュージアム、2008年6月7日)

発表「MLA+E試論—独立行政法人国立美術館における情報〈連携〉再論」/アート・ドキュメンテーション学会年次大会(京都国際マンガミュージアム、2008年6月8日)

「〈連携〉する美術情報 国立美術館の公開情報資源—所蔵作品と図書情報を中心に」/『現代の眼』571号

発表「美術と演劇—新たなMLA〈連携〉の可能性：関根正二《女の顔》と生田長江『円光』をめぐって」/シンポジウム「演劇博とは何か—演劇博物館の80年とWASEDA文化」(早稲田大学小野記念講堂、2008年10月26日)

発表「〈連携〉する美術情報：IFLA/ARLIS/JADS/ALCの展開を通して Bridging the distances between art information/resources, professionals and organizations/institutions: Some cases on IFLA/ARLIS/JADS/ALC」/シンポジウム「2008 視覚芸術政策フォーラム〈Art Archives〉II」(韓国文化芸術委員会Arkoアートセンター、2008年11月14日)

「Arko韓国文化芸術委員会等主催『2008 視覚芸術政策フォーラム〈Art Archives〉II (2008.11.14, Seoul)』に参加して」/『アート・ドキュメンテーション通信』80号(2009年1月)

「夢の砦—展覧会カタログのために」/『展覧会カタログ総覧』(日外アソシエーツ、2009年1月)

発表「基調報告“夢の砦”を築くには JADS, ALCと展覧会カタログ—達成と課題」/アート・ドキュメンテーション学会主催『展覧会カタログ総覧』刊行記念シンポジウム「いま、あらためて展覧会カタログを見直す」(和光大学附属梅根記念図書館、2009年3月20日)

◆三輪健仁

テキスト/『壁と大地の際で』展ブローシャ

「近代美術の東京 土田麦僊『島の女』」/『読売新聞』(都内版、2008年11月14日)

「不純なる媒体：1970年前後の映像について」、作品解説、翻訳：ベンジャミン・H.D. ブクロー「リチャード・セラの作品におけるプロセス彫刻とフィルムについて」/『ビデオを待ちながら—映像、60年代から今日へ』展カタログ

◆荒木和

解説・問題作成「西洋美術史 原始・古代～ルネサンス」「西洋美術史 20世紀」/『美術検定 過去問題集2008 四択マークシート』(美術出版社、2008年7月)

構成「2008年のアーティスト・トークから」/『現代の眼』574号

◆山口百合

執筆・編集『MOMATコレクションこどもセルフガイド』

「KIDS★MOMAT2008 東京国立近代美術館のなつやすみ 夏休み！こども美術館」／『現代の眼』573号

「KIDS★MOMAT2008 夏休み！こども美術館」／『教育美術』第797号（財団法人教育美術振興会、2008年11月）

【平成21年度】

◆一條彰子

講演「これからの学校と美術館」／日本美術教育連合主催教育講演会（東京国立近代美術館講堂、2009年5月10日）

発表「美術館におけるミュージアム・リテラシー」／第14回日本ミュージアム・マネージメント学会大会指定討論（東京家政学院大学、2009年6月6日）

「美術館におけるミュージアム・リテラシー」／『日本ミュージアム・マネージメント学会会報No.53』Vol.14 No.2（2009年9月）

「トークラリー—いまどきの中学生のための逆ギャラリートーク」／『現代の眼』579号

「国立美術館の研修と教材」／『教育美術』第797号（財団法人教育美術振興会、2008年11月）

執筆・編集『東京国立近代美術館のスクール・プログラム』

「変化への対応と今後に向けて」、ほか企画編集／『平成21年度美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修記録集』（独立行政法人国立美術館、2010年3月）

◆大谷省吾

「銀座紀伊國屋ギャラリーという場所」／東京文化財研究所編『昭和期美術展覧会の研究 戦前篇』（東京文化財研究所、2009年4月）

「新発見の福沢一郎作品をめぐって」／『福沢一郎記念館ニュース』29号（2009年4月）

「影響と自立」／『躍動する魂のきらめき 日本の表現主義』展カタログ（栃木県立美術館他、2009年4月）

「高松次郎の《日本語の文字》はなぜ版画でなければならなかったのだろうか？」／『現代の眼』576号

発表「銀座紀伊國屋ギャラリーをめぐって」／明治美術学会（早稲田大学、2009年7月25日）

「展覧会予告 河口龍夫展 言葉・時間・生命」／『現代の眼』577号

「河口龍夫展 言葉・時間・生命」／『文化庁月報』493号（2009年10月）

「星座をつくる人」、章解説、作品解説（ギャラリートーク風に）／『河口龍夫展 言葉・時間・生命』展カタログ

「交響曲としての展覧会」、作品解説／『河口龍夫展 言葉・時間・生命』展カタログ別冊

「The Experimental Workshop—The Meeting of Media」／『Experimental Workshop Japan 1951-1958』展カタログ（Annely Juda Fine Art, London、2009年10月）

講演「河口龍夫展」（河口龍夫、松本透と座談会）（東京国立近代美術館、2009年11月14日）

◆蔵屋美香

「情感とエロティシズムの表出 あるいは、造形の実験」／『別冊太陽 裸婦素晴らしき日本女性の美』(平凡社、2009年4月)

「平成20年度の新収蔵作品(美術作品)について」／『現代の眼』575号

「[コレクションによる小企画] 寝るひと・立つひと・もたれるひと」／『現代の眼』576号

テキスト／『寝るひと・立つひと・もたれるひと』展ブローシャ

「近代美術の眼 萬鉄五郎『もたれて立つ人』」／『読売新聞』(都内版、2009年6月12日)

「ステューディオ:クリエイターの仕事場。丸山直文」／『ハイファッション』(文化出版局、2009年10月)

「展評:アート・ビジョンVOL.8 小林正人展—この星の絵の具」／『美術手帖』(美術出版社、2009年9月)

「麗子はどこにいる?—岸田劉生 1914-1918の肖像画」／『東京国立近代美術館研究紀要』第14号

◆鈴木勝雄

作品解説、《我々はどこから来たのか 我々は何者か 我々はどこに行くのか》解説／『ゴーギャン展』カタログ

「近代美術の眼 黒田清輝『落葉』」／『読売新聞』(都内版、2009年11月13日)

「北川民次《メキシコ静物》—近代精神のユートピア」／『現代の眼』579号

「『水浴考』へのプロローグ」／『現代の眼』580号

テキスト／『水浴考』展ブローシャ

◆都築千重子

「近代美術の眼 長谷川潔『コップに挿した種子草』」／『読売新聞』(都内版、2009年4月10日)

作品解説／『別冊太陽 裸婦素晴らしき日本女性の美』(平凡社、2009年4月)

「近代美術の眼 前田藤四郎『時計』」／『読売新聞』(都内版、2010年1月8日)

◆鶴見香織

コラム「今村紫紅と新南画」／『別冊太陽 日本のこころ161 速水御舟—日本画を破壊する』(平凡社、2009年9月)

共著『もっと知りたい速水御舟 生涯と作品』(東京美術、2009年10月)

「小野竹喬《島二作》《郷土風景》について」、特集展示解説、コラム、作品解説／『生誕120年 小野竹喬展』カタログ

作品解説／『趣味の水墨画』250号(ユーキャン、2010年2月)

作品解説「小野竹喬の世界—生誕120年展から」(連載)／『毎日新聞』(都内版、2010年3月6、15、23、25日、4月7日)

講演「生誕120年 小野竹喬展」(中野ZERO、2010年2月23日)

講演「生誕120年 小野竹喬展」(板橋区立文化会館、2010年3月17日)

講演「生誕120年 小野竹喬展」(調布市グリーンホール、2010年3月18日)

◆中林和雄

「ジャン・デュビュッフェ《草の茂る壁際》主体性と装飾」／『現代の眼』575

号

「ジャッド・発注・絵画」／『Fuji Xerox Print Collection Donald Judd』展ブローシャ (Art Space by Fuji Xerox, 2009年6月)

「ゴッティンへの試論」、作品解説／『ゴッティン展』カタログ

「繁茂とうつろい—和紙的もしくは植物的想像力について [Wachstum und Wandel, Über die Imaginationskraft von Papier und Vegetation]」(独語・英語)／『Kami. Silence/Action-Japanische Kunst der Gegenwart auf Papier』展カタログ (Staatliche Kunstsammlungen Dresden Kupferstich-Kabinett, 2009年10月)

「マティス試論(II)絵画と装飾性」／『東京国立近代美術館研究紀要』第14号

◆中村麗子

「日本画にみる裸婦」、作家解説、作品解説／『別冊太陽 裸婦 素晴らしき日本女性の美』(平凡社, 2009年4月)

「木に何を『潜ませる』か?—素材との付き合い方、そして造形へ(コレクションを中心とした小企画『木に潜むもの』)」／『現代の眼』575号

作品解説／『日本の美IV 日本の四季 秋冬』(美術年鑑社, 2009年8月)

「近代美術の眼 菱田春草『賢首菩薩』」／『読売新聞』(都内版, 2009年12月18日)

「近代美術の眼 竹内栖鳳『飼われたる猿と兎』」／『読売新聞』(都内版, 2010年2月26日)

テキスト／『テーマで歩こう 庭—作家の小宇宙』展ブローシャ

◆保坂健二郎

「Exhibition Walkabout」(連載)／『東京人』(都市出版社, 2009年4月~2010年3月)

「なぜ田中功起は編集に懐疑的なのか」／『すばる』(集英社, 2009年4月)

「すべての芸術は模型に憧れる! ?」／『東京人』(都市出版社, 2009年5月)

「ステューディオ:クリエイターの仕事場。小谷元彦」／『ハイファッション』(文化出版局, 2009年6月)

「西野達の本能的な制作」／『すばる』(集英社, 2009年6月)

「彫刻論の再編成に向けて」(「小谷元彦 SP4 “the specter” in modern sculpture」展の展評)／『美術手帖』(美術出版社, 2009年6月)

「清宮質文が描く建物」／『すばる』(集英社, 2009年7月)

トーク「TWS-Emerging 2009 Vol.2」(トーキョーワンダーサイト本郷, 2009年7月4日)

「近代美術の眼 坂本繁二郎『豚』」／『読売新聞』(都内版, 2009年7月10日)

「『道具的理性』からの脱却」(「西野達『バレたらどうする』」展の展評)／『美術手帖』(美術出版社, 2009年8月)

「スイスの建築家と日本」／『すばる』(集英社, 2009年9月)

公開会議「集まれ! アート・イニシアチヴ PART2」(BankART Studio NYK, 2010年9月5日)

審査員「第62回岩手芸術祭」(岩手県民会館展示室, 2009年9月13日)

「小穴純 アナログにとどまること」／『すばる』(集英社, 2009年10月)

審査員「平成21年度 二国間交流事業 台北派遣クリエイター」(トーキョーワンダーサイト, 2009年10月9、16日)

展覧会企画『この世界とのつながりかた』(ポータルレス・アートミュージア

ムNO-MA、2009年10月24日～2010年3月7日)

「なぜ建築はコレクションされるべきなのか」／『建築以前、建築以後』(アクセス・パブリッシング、2009年11月)

『『瀬東綺譚』を描く』／『すばる』(集英社、2009年11月)

「鼎談 門林岳史+保坂健二郎+新藤淳 イメージのプレゼンスとエモーション」／『Review House』3号(Review House編集室、2009年12月)

「レベッカ・ホルンのちぐはぐな器具」／『すばる』(集英社、2010年1月)

講演「作品を言葉にすること」(沖縄県立博物館・美術館講座室、2010年1月9日)

集中講座「絵画の歴史」／NPO法人アーツイニシアティヴトウキョウ(AIT代官山、2010年1月22日、23日)

基調報告、パネリスト「モードとしてのドローイング」／シンポジウム「絵画の時代—ゼロ年代の地平から」(国立国際美術館、2010年1月24日)

「絵画のヴァリエーション」／『美術手帖』(美術出版社、2010年2月)

「展覧会予告 建築はどこにあるの? 7つのインスタレーション」／『現代の眼』580号

講演「作品を選ぶこと」／「アメニティー・ネットワーク・フォーラム4」(大津プリンスホテル、2010年2月6日)

企画運営「シンポジウム 建築アーカイヴの現在と未来」(東京大学本郷キャンパス工学部1号館15号講義室、2010年2月21日)

「鼎談 奈良美智+高嶺格+保坂健二郎」／『アウトサイダー・アートの作家たち』(角川学芸出版、2010年3月)

◆増田玲

「近代美術の眼 細江英公『薔薇刑』」／『読売新聞』(都内版、2009年5月8日)

「近代美術の眼 川田喜久治『ラスト・コスモロジー』」／『読売新聞』(都内版、2009年9月11日)

「鑑賞の位相—土門拳と藤本四八の仏像写真をめぐって」／『現代の眼』580号

◆松本透

「赤と青—鈴木隆の近作」／小冊子『鈴木隆』(GALLERY TERASHITA、2009年4月)

「権鎮圭の回顧展に寄せて」／『現代の眼』577号

「物質への動機—鈴木久雄の彫刻」／『鈴木久雄展—彫刻の領域』カタログ(中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館、2009年8月)

「河口龍夫—未来形の芸術」／『河口龍夫 言葉・時間・生命』展カタログ

「感情と構造—権鎮圭の彫刻」／『権鎮圭』展カタログ

「現代美術とオリジナル」／「“オリジナル”の行方—文化財を伝えるために」(東京文化財研究所編、平凡社、2010年3月)

◆水谷長志

「美術館・博物館研究員は語る 美術館の中の図書室(アトライブラリ)—美と知の宝庫」／『文部科学時報』(2009年4月)

「書評『図書館 この素晴らしき世界』」／『図書館雑誌』103巻6号(2009年6月)

「特集にあたって」、「〈連携〉する美術館図書室—『展覧会カタログ総覧』から

見るアートライブラリの展開と課題』／『現代の眼』576号

「連携」する美術情報：IFLA／ARLIS／JADS／ALCの展開を通して』／『韓国の視覚芸術の課題と展望』(タハルメディア(ソウル)、2009年11月)

発表「総論 美術情報・資料の活用法—提供と利用のはざまにおいて」、**「第Ⅲ講 今日図書館から俯瞰する美術館の資料活動」**、「第Ⅳ講 電子的リソース(二次資料)」／全国美術館会議情報・資料研究部会企画セミナー「美術情報・資料の活用法—展覧会カタログからWebまで」(東京国立博物館、国立西洋美術館、2009年11月10-11日)

発表「日本におけるMLA連携の現状と課題」、「記念鼎談 これからのMLA連携に向けて」、「日本のアート・ドキュメンテーション—20年の達成とJADS趣旨説明—イントロダクション」／第4回アート・ドキュメンテーション研究フォーラム「日本のアート・ドキュメンテーション—20年の達成 MLA連携の現状、課題、そして将来」(東京国立博物館平成館、2009年12月13日)

「ジェーン・ライト (Jane Wright, 1879-1929)、ふたたび」／『アート・ドキュメンテーション通信』84号(2010年1月)

「第4回アート・ドキュメンテーション研究フォーラムを終えて」／『アート・ドキュメンテーション通信』84号(2010年1月)

発表「国立美術館の情報発信—近年の展開と課題」／全国美術館会議第25回学芸員研修会「美術館の情報発信—参加する、つながる、共有する、ウェブの新時代—」(国立新美術館、2010年3月12日)

◆三輪健仁

翻訳：ウィリアム・ケントリッジ「影の礼讃」／『ウィリアム・ケントリッジ—歩きながら歴史を考える—そしてドローイングは動き始めた……』展カタログ

公開講座「批評(創造)の現在シリーズ—4」(近畿大学 国際人文科学研究所 東京コミュニティカレッジ 四谷アート・ステュディオム、2009年10月3日)

◆荒木和

解説・問題作成・コラム／『美術検定 2級過去問題集2009』(美術出版社、2009年7月)

解説・問題作成・コラム／『美術検定 3級・4級過去問題集2009』(美術出版社、2009年7月)

「『鑑賞ノススメ』と音声ガイド」／『現代の眼』578号

構成「2009年のアーティスト・トークから」／『現代の眼』580号

◆山口百合

執筆・編集「ゴーギャン展こどもセルフガイド ゴーギャンの冒険」

執筆・編集「MOMATコレクションこどもセルフガイド」

【平成20年度】

◆今井陽子

イベント報告「トークイベントから 前田昭博×今井陽子」『現代の眼』569号

「北村武資の《羅》」／『現代の眼』573号

「茶室の工芸学 加藤土師萌」／『淡交』763号(淡交社、2008年4月)

「OWL IN THE WELL ～梟の棲む井戸」、『柳原睦夫展』カタログ(日本橋高島屋、2008年5月)

「茶室の工芸学 松田権六」／『淡交』770号(淡交社、2008年10月)

「染織の美」、作品解説「甲田栄佑 精好仙台平 利休」「山田貢 麻地友禅着物 朝凧」「古賀フミ 佐賀錦松皮菱文帯 春匂う」「伊砂利彦 きものドビュッシー 前奏曲集交代する三度のイメージより」他／『工芸館名品集—染織』

「染織作家の情景(1) 鈴田照次」／『美しいキモノ』227号(アシェット婦人画報社、2009年2月)

セルフガイド『デコハント』、『鑑賞の手引き』、ワークシート『デコドリル』、『やきものワークショップ』、『こどもタッチ&トーク』他／『こども工芸館～装飾(デコ)』展(2008年7月)

「人形私考」／『感じる鼓動 東京国立近代美術館工芸館所蔵 人形』展カタログ(碧南市藤井達吉現代美術館、佐野美術館、2008年12月)

講演「工芸鑑賞のすすめ」(大妻女子大学、2008年8月)

講演「近代の人形芸術」(碧南市藤井達吉現代美術館、2008年12月)

◆金子賢治

監修『非水百花譜』(ランダムハウス講談社、2008年7月、「『非水百花譜』の時代—「美術工芸」からモダン・デザインへ」執筆)

北野勝久—「磁器の表現」新世代／『北野勝久個展』カタログ(黒田陶苑、2008年5月)

「染織の歴史—模様染と織の系譜」／『工芸館名品集—染織』

井上康徳の現在—「影青」から非情の曲線へ／『井上康徳展』カタログ(2009年2月)

共著『日本美術史ハンドブック』(新書館、2009年3月)

◆唐澤昌宏

イベント報告「トークイベントから 橋本真之×唐澤昌宏」／『現代の眼』569号

「荒川豊藏の〈志野〉」／『現代の眼』574号

「加藤唐九郎・重高・高宏—『かまぐれ』三代の作陶」／『加藤唐九郎・重高・高宏 窯ぐれ三代展』カタログ(中日新聞社、2008年10月)

『茶陶』—写しから創造への歩み、そして造形と意匠にみる現在性—／『茶陶—造形と意匠にみる現在性』展カタログ(多治見市文化工房 ギャラリーヴォイス、2008年12月)

『『窯ぐれ三代展』に寄せて—加藤唐九郎・重高・高宏—『かまぐれ』三代の作陶』／『陶説』671号(日本陶磁協会、2009年2月)

コラム「日本陶磁協会賞の重みと励み」／『陶説』670号(日本陶磁協会、2009

年1月)

作品解説「形態のうねり」／『月刊 展覧会ガイド』(2008年7月号)

作品解説「茶室の工芸学 三輪壽雪《鬼萩割高台茶碗》」／『淡交』通巻768号(淡交社、2008年9月)

作品解説「加藤唐九郎《志野茶盃 銘 垂幌》」／『中日新聞』(中日新聞社、2008年10月16日)

作品解説「加藤重高《紫志野刻文花器》」／『中日新聞』(中日新聞社、2008年10月17日)

作品解説「加藤高宏《黄瀬戸花器》」／『中日新聞』(中日新聞社、2008年10月18日)

作品解説「加藤唐九郎《志野茶盃 銘 貫道》」／『東京新聞』(東京新聞社、2009年1月19日)

作品解説「近代工芸の名作 第61回 荒川豊藏《志野茶壺 銘 氷梅》」／『チャイム銀座』通巻308号(和光、2009年3月)

作品解説「木村雨山《一越縮緬地花鳥文訪問着》」ほか／『工芸館名品集一染織』

作品解説「素材を手の内に 加藤土師萌《青白磁鳥獸浮文鉢》、塚本快示《青白磁彫花鉢》」／『淡交』通巻775号(淡交社、2009年3月)

座談会「現代陶芸としての茶陶」(多治見市文化工房 ギャラリーヴォイス、2008年12月7日)

講演「加藤唐九郎・重高・高宏―『かまぐれ』三代の作陶について」(菊池寛実記念 智美術館、2009年1月17日)

◆木田拓也

「帝展が描き出す『工芸美術』の輪郭線」／『美術史の余白に：工芸・アルス・現代美術』(美学出版、2008年9月)

Industrial Arts Institute (IAI) and Designers from the Occident: Planting the Idea of Modern Design in Japan in the 1930s-1940s, *Proceedings of the 6th International Conference of Design History and Design Studies, "Another Name for Design: Words for Creation"*, Osaka University Communication-Design Center, 2008年10月

「渡辺素舟と大正十四年の図案工芸界」／『叢書・近代日本のデザイン16「図案工芸年鑑 大正十五年度」渡辺素舟』(ゆまに書房、2008年10月)

「シリーズ陶芸の巨匠：加藤土師萌」／『炎芸術』97号、2009年1月

学会発表 Industrial Arts Institute (IAI) and Designers from the Occident: Planting the Idea of Modern Design in Japan in the 1930s-1940s (第6回国際デザイン学デザイン史学会、大阪大学中ノ島センター、2008年10月26日)

講演「魯山人と『桃山復興』」(岐阜市歴史博物館、2009年6月21日)

作品解説「宮川香山《鳩桜花図高浮彫花瓶》」(所蔵作品展こども工芸館「装飾／デコ」)／『読売新聞』(2008年8月19日夕刊)

作品解説「茶室の工芸学 音丸耕堂《彫漆紫陽花茶器》」／『淡交』62巻5号(2008年5月)

作品解説「近代工芸の名作 第55回 喜多川平朗《打掛唐織萌黄地牡丹文》」／『チャイム銀座』29巻7号(2008年7月)

作品解説「近代工芸の名作 第60回 平良敏子《芭蕉布斜角取縞緋着物》」／『チャイム銀座』30巻1号(2009年1月)

◆北村仁美

「かたちのエッセンス—平松保城の制作と思考」／『かたちのエッセンス—平松保城のジュエリー』展カタログ

作品解説「平松保城《ブローチ》」（企画展「かたちのエッセンス—平松保城のジュエリー」）『読売新聞』2008年11月11日。

作品解説「茶室の工芸学 生野祥雲齋《紫竹まがき華籃》」『淡交』62巻6号（2008年6月）。

作品解説「近代工芸の名作 第52回 ルネ・ラリック 《ブローチ・翼のある風の精》、《ブローチ・桑の木と甲虫》」『チャイム銀座』29巻5号（2008年5月）

作品解説「近代工芸の名作 第57回 平松保城《スカルプチャー・ウエイト》」『チャイム銀座』29巻10号（2008年10月）

◆三上美和

「所蔵作品展 ヨーロッパの近代工芸とデザイナー—アール・デコを中心にアール・デコと都市の輝き」／『現代の眼』569号

「博士論文要約」／学習院大学教務部（2008年5月）

『鑑賞の手引き』、ワークシート『デコドリル』、『やきものワークショップ』、『こどもタッチ&トーク』他／「こども工芸館～装飾(デコ)」展（2008年7月）

作品解説「茶室の工芸学：現代工芸家の茶器；[31] 齋藤明『蠟型臙銀花器』1987年」／『淡交』62巻7号（通号766）（2008年7月）

『平成20年度美術館を活用した鑑賞教育のための指導者研修』（2008年10月）

作品解説「東京国立近代美術館コレクションより（第5回）十二代酒井田柿右衛門『色絵草花文蓋物』」／『Taiki plus』4号 Autumn 2008（2008年10月）

「平松保城年譜」／『かたちのエッセンス—平松保城のジュエリー』展カタログ

◆諸山正則

「富田文隆の家具という芸術」／『富田文隆—木の美しさ、家具の造形—』展カタログ（群馬県立近代美術館、2008年6月）

「The handcrafted contemporary furniture of Fumitaka Tomita and Kenji Suda」／『KATEIGAHO International Edition』21号（2008年夏）

「茶室の工芸学—現代工芸家の茶器 小林菊一郎『うろこ文切子鉢、小鉢』」／『淡交』767号（2008年8月）

「三田村自芳《春秋蒔絵茶器》」／『チャイム』303号（2008年9月）

「小松誠—デザイン+ユーモア—」／『小松誠—デザイン+ユーモア—』展カタログ

「素材を手の内に 漆—赤地友哉《はりぬき朱八角中次》・角偉三郎《溜漆椀》」／『淡交』774号（2009年2月）

「本池秀夫の革の人形とその時代」／『本池秀夫—革の世界—』展カタログ（米子市美術館、2009年2月）

◆齊藤佳代

セルフガイド『デコハント』、『鑑賞の手引き』、ワークシート『デコドリル』、『やきものワークショップ』、『こどもタッチ&トーク』他／『こども工芸館～装飾(デコ)』展（2008年7月）

【平成21年度】

◆今井陽子

「素材を手の内に 衣裳人形」／『淡交』776号(淡交社、2009年4月)

「染織作家の情景(2) 喜多川平朗」／『美しいキモノ』228号(アシェット婦人画報社、2009年5月)

「染織作家の情景(3) 宗広力三」／『美しいキモノ』229号(アシェット婦人画報社、2009年8月)

「素材を手の内に 紬」／『淡交』781号(淡交社、2009年7月)

「文化芸術へのいざない(10)：子どもとともに、学び、楽しむ 工芸館の夏2009」／『文化庁月報』491号(2009年8月)

「染織作家の情景(4) 森口華弘」／『美しいキモノ』230号(アシェット婦人画報社、2009年11月)

「語りかけるかたち(1) 古賀フミ」／『美しいキモノ』230号(アシェット婦人画報社、2010年2月)

セルフガイド『!コレクション』『涼』『鑑賞の手引き』『やきものワークショップ』『こどもタッチ&トーク』他／「こども工芸館～!コレクション」「おとな工芸館～涼しさ招く」展(2009年7月)

作家解説：「青木克世」「青野千穂」他／『現代工芸への視点—装飾の力』展カタログ

◆金子賢治

「透明なトランジション—堀友三郎の精神性」／『堀友三郎作品集』(求龍堂、2009年6月)

「カメラの遺伝子：植葉香澄の現在」／『植葉香澄』展パンフレット(目黒陶芸館、2009年9月)

「ミュシャから杉浦非水へ」／『ユリイカ』(青土社、2009年9月)

「森正洋の仕事—モダンデザインと『表現』の工芸」／『森正洋の全仕事』(ランダムハウス講談社、2009年10月)

「秋山逸生：『際立ちの美』」／『秋山逸生』展パンフレット(市川市芳澤ガーデンギャラリー、2010年1月)

「神谷紀雄さんの新境地」／『神谷紀雄個展』カタログ(日本橋三越、2010年2月)

『ルーシー・リー作品の特質』／『炎芸術』101号(2010年2月)

『『表現の人形』史—竹久夢二から現代へ』／『工芸館名品集—人形』

「装飾：過剰のメンタリティー」／『現代工芸への視点 装飾の力』展カタログ

◆唐澤昌宏

「自身を織り込む—中島晴美の陶造形—」／『中島晴美展』リーフレット(ギャラリー目黒陶芸館、2009年7月26日)

「加藤唐九郎の作陶」／『TAIKI』05号(新日本教育図書、2009年7月31日)

「日本の陶芸史を飾る作家の逸品に出会う」／『文化庁月報』492号(2009年9月)

「近代以降の『天目』 “写し”から“創作”への歩み」／『淡交別冊 愛蔵版天目—賞翫され続ける至宝の茶碗』第56号(淡交社、2009年11月16日)

「古典から探り出す急須の在り方」／『炎芸術』101号(阿部出版、2010年2月1

日)

鼎談「鈴木志野」／『不二の志野 人間国宝 鈴木藏展』カタログ(高島屋、2009年4月)

レポート「第20回日本陶芸展」／『炎芸術』98号(阿部出版、2009年5月1日)

作品解説「今泉毅《黒彩ノ器》」／『第20回日本陶芸展』カタログ(毎日新聞社、2009年4月)

作家解説「バーナード・リーチ」「荒川豊藏」／『染野夫妻陶芸コレクション—リーチ・濱田・豊藏・壽雪—』展カタログ

作品解説「近代工芸の名作 第66回 荒川豊藏《瀬戸黒金彩木葉文水指》」／『チャイム銀座』通巻313号(和光、2009年9月)

作品解説「近代工芸の名作 第67回 荒川豊藏《赤絵花鳥図壺》」／『チャイム銀座』通巻314号(和光、2009年10月)

作品解説「素材を手の内に 板谷波山《霽青磁牡丹彫文花瓶》、三浦小平二《青瓷蓋物 馬頭琴(ダッツァンにて)》」／『淡交』通巻783号(淡交社、2009年10月)

作家解説「十四代今泉今右衛門」「佐合道子」「篠崎裕美子」「田中知美」「服部真紀子」「森野彰人」／『現代工芸への視点—装飾の力』展カタログ

作品解説「近代工芸の名作 第69回 初代長野埜志《松林の図肩衝釜》」／『チャイム銀座』通巻316号(和光、2009年12月)

作品解説「近代工芸の名作 第70回 十四代今泉今右衛門《色絵墨色墨はじき草花更紗文花瓶》」／『チャイム銀座』通巻317号(和光、2010年1月)

作品解説「大林蘇乃《西銀座昼の月》」ほか／『工芸館名品集—一人形』

講演「荒川豊藏の〈志野〉—自然と生命の讃歌」(山口県立萩美術館・浦上記念館、2009年5月2日)

講演「近代陶芸の発展における小森忍の窯業研究と作陶」(瀬戸市文化センター文化交流館、2009年8月22日)

講演「工芸における表現とは」(金沢市文化ホール、2010年2月20日)

◆木田拓也

「一九三〇年代における工芸とナショナリズム：『伝統工芸』前史について」／『美術フォーラム21』19号(美術フォーラム21刊行会、2009年5月)

“Traditional Art Crafts (*Dentō Kōgei*)” in Japan: From Reproductions to Original Works, *The Journal of Modern Craft*, Vol. 3, No. 1, (2010年3月)

学会発表「国井喜太郎の固有工芸論：1930年代における『日本的なもの』とモダンデザイン」／デザイン史学研究会(埼玉大学、2010年3月13日)

作品解説「近代工芸の名作 第68回 富田美樹子《変質する形》」／『チャイム銀座』30巻9号(2009年11月)

作品解説「近代工芸の名作 第63回 ジャン・ピユイフォルカ《ティー・セット》」／『チャイム銀座』30巻4号(2009年5月)。

作品解説「素材を手の内に 崇高な世界にいざなう金の輝き」／『淡交』63巻11号(2009年11月)

作品解説「素材を手の内に 作品をひきたてる貝殻の輝き」／『淡交』63巻5号(2009年5月)

◆北村仁美

「ルーシー・リーの生涯」／『炎芸術』101号(阿部出版、2010年2月)

作品解説「素材を手の内に 『型絵染』に際立つ個性」／『淡交』63巻6号(2009

年6月)

◆三上美和

作家略歴・解説(植木寛子、北村純子、高村宜志)／『工芸館名品集 染織』

作品解説「素材を手の内に 東京国立近代美術館工芸館所蔵品より [8] : 色絵磁器—富本憲吉『色絵金銀彩四弁花染付風景文字文壺』1957年、藤本能道『梅白釉描色絵金銀彩 鷲図扁壺』1991年／『淡交』63巻8号(通号780)(2009年8月)

「安田鞞彦筆《夢殿》—明治期聖徳太子顕彰を手掛かりに—」／美術史学会『美術史』第167冊(2009年10月)

「教育普及レポート 工芸の鑑賞を考える—教職員のための研修から—」『現代の眼』第579号

作品解説「素材を手の内に 東京国立近代美術館工芸館所蔵品より [12] : 陶磁—富本憲吉『土焼刷毛目壺』1926年、『白磁珈琲器』1933年」／『淡交』63巻12号(通号785)(2009年12月)

作品解説(竹下夢二《少年》《ピエロ》、堀柳女《けはい》他)『工芸館名品集—人形』

「活動報告」／『平成21年度 美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修』(2010年3月)

◆諸山正則

「鹿児島寿蔵の人形芸術」／『人間国宝 鹿児島寿蔵』展カタログ(東京ステーションギャラリー—ギャラリー、2009年4月)

「『吟上のうつわ』展に寄せて」／『川瀬忍 吟上のうつわ』展カタログ(2009年4月)

「鈴木治《四角い窓》」／『TAIKI』5号(2009年7月)

「素材を手の内に 田辺一竹斎《透し編瓢形花籃》・三代田辺竹雲斎《方》」／『淡交』779号(2009年7月)

「Contemporary Japanese Ceramics and the Green Gallery Collection (日本の現代陶芸とグリーンギャラリー・コレクション)」／『Green Gallery Collection at Auckland Museum: Celebration of an Acquisition』(Auckland Museum、2009年8月)

「陶芸家・河井寛次郎の歓喜」／『河井の真実』展カタログ(益子陶芸美術館、2009年9月)

「日本の伝統美と技を守る人々 32 大坂弘道(木工芸)」／『文化庁月報』493号(2009年10月)

「江戸小紋、長板中型、そして型紙」／『なごみ』359号(2009年11月)

「作家略歴・解説 川端健太郎、高石次郎、徳丸鏡子」／『現代工芸への視点—装飾の力』展カタログ

「早川良雄の“顔”と“形状”」／『早川良雄—“顔”と“形状”—』展カタログ

◆齊藤佳代

セルフガイド『コレクション』『鑑賞の手引き』「やきものワークショップ」
「こどもタッチ&トーク」他／「こども工芸館〜コレクション」
「おとな工芸館〜涼しさ招く」展(2009年7月)